

# 令和2(2020)年度 ウィークエンド青少年セミナー①実施報告

実施日：令和2年10月17日(土)

本セミナーは、次代を担う青少年が、身近な地域活動やボランティア活動に積極的に参加できるよう、演習を中心とした主体的な学びを通し、活動の企画や運営などの実践力を養うことをねらいとしています。宇都宮大学との共催で、10～12月に全5回の内容で実施します。第1回は、総合教育センターで行われ、大学生11名、高校生8名の計19名の参加で講座が始まりました。



## 講話・演習「若者には地域を変える力がある！」

宇都宮大学 地域デザイン科学部 准教授 若園 雄志郎 氏

社会教育には、自分を高めていこうとする「自己教育」とみんなで「幸せ」を目指して学び合う「相互教育」の2つの側面があるというお話を伺うことができました。アクティビティでは、受講者同士が「地域づくり」についてお互いの考えを共有しました。受講者は、それぞれ考えたことを付箋紙に記入し、大きな紙に貼り合わせ、いろいろな意見を共有しながら、人と人がつながっていける方法について考えることができました。



## 説明・アイスブレイク

### 「県博デーで自分たちも何かやってみよう！」

総合教育センター職員

始めに簡単な自己紹介と、接触をせずに行うアイスブレイクを通して、受講者は緊張を解きほぐしました。その後、研修のねらいを確認して、県立博物館での実習に向けてイメージを膨らませました。また、博物館で行われている企画の特徴や県博デーの流れや様子などについて画像や動画を通して確認しました。受講者は、博物館で行われる今後の活動に向けて、意欲を高めることができましたようです。



## 事例発表「博物館と協働した取組」

那須野が原博物館 学習支援ボランティア 石ぐら会 杉田 智生 氏  
高佐登志雄 氏

那須野が原博物館を中心に活動している石ぐら会の歴史ある活動について発表をいただきました。学校支援ボランティアとして小学生を対象に、昔の道具(生活用品)の案内や那須野が原開拓の歴史の説明などを行っているという話がありました。また、市や博物館のイベントへの支援活動や会員同士の研修などについても触れられました。受講者は、地域の博物館と協働した様々な取組について知り、博物館ならではの視点を理解することができました。



### \*受講者の感想より\*

- 社会教育とは「幸せ」のためにあるということ学びました。
- 博物館は何回か行ったことはありますが、いろいろ工夫していることを初めて知ることができました。
- 接触のないアイスブレイクや意見交換もできるんだということが分かりました。
- 石ぐら会のように子どもたちの学習支援に貢献している団体があることが分かりました。
- 地域づくりの魅力を知ることができました。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは、栃木県総合教育センター生涯学習部まで  
TEL:028-665-7206 e-mail: skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp